

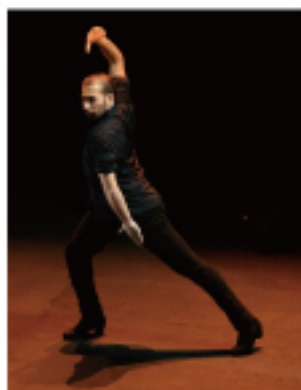
今年は、1613年の慶長遣欧使節団派遣(日本がスペインに向け、初めて使節団を派遣)から、ちょうど400周年にあたります。そこで両国は、2013年から2014年にかけてを「日本スペイン交流400周年」とし、文化、教育、観光等幅広い分野で交流事業を実施。両国を結ぶ様々な公演、イベント等を交流年事業として認定しています。今号のフルーカ特集では、数ある交流年事業の中でもフルーカ読者に是非オススメしたいイベントを厳選、紹介いたします!芸術の秋、スペインの文化に触れて、心身ともにブラッシュアップしましょう!



厳選! 秋のフラメンコ公演&イベント特集



10月14日公演
Danzaora (タンサオーラ)
ロシオ・モリーナ舞踊団
1984年マラガ生まれ。3歳で初



©Foto Yaguz

10月13日公演
La Edad De Oro (黄金時代)
イスラエル・ガルバン (Israel Galvan)
「フラメンコ」最大の舞踊神匠、イスラエル・ガルバンは、1973年セビージャ生まれ。彼の踊りを初めて目にした者は、その独創的すぎるスタイルに「これはフラメンコなのか?」と、目を疑うかもしれない。しかし、早くから正統派舞踊手としての頭角を現し、近年のような前衛的、斬新な作品群にあっても、彼を纏う「フラメンコの源流」が、観る者に圧倒的な信頼感を与える。これまでも数々の賞を受賞し、スペインを代表する天才コレオグラファーとしての地位を確立したガルバン。今後もフラメンコの新しい未来を創造し続けるであろう。

そして、今回公演される「ラ・エダド・オロ(黄金時代)」は、2005年より上演される彼の代表作の一つ。19世紀末から20世紀前半にかけての「フラメンコ黄金時代」を、独特の斬新なタッチで描き出している名作である。決して他者が立ち入ることのできないガルバン・ワールドをこの目で堪能しよう。

日時:10月12日(土)~14日(月)
13:30開場14:00開演
会場:新宿文化センター・大ホール
料金: S席 ¥10,000 A席 ¥8,500(全席指定・税込) ※3歳以下はチケットスペースにて電話予約のみ取扱
問合せ:03-3234-9999 チケットスペース



©Marek Marci

舞台を踏み、7歳から舞踊学校でしっかりとベースを築きあげたというフラメンコ・エリート。伝統的なフラメンコからモダンまで、斬新な振り付けと類まれなる高度なテクニックを駆使した作品は、高く評価され、様々な栄誉ある賞を受賞している。

もはやフラメンコという枠を超え「タンサオーラ」(タンサー)とフラメンコ舞踊手を掛けた造語)として認知されたロシオの存在そのままに、今回の公演「タンサオーラ」(11年上演)では、大きな舞踊世界の中でも「フラメンコ」へのこだわりを見せるタンサオーラの未来が表現されているとのこと。

彼女の抜群の身体能力と天性のリズム感、どれをとっても超一流と呼ぶにふさわしい。自らの舞踊で、世界を股にかけて精力的に活動する、名実ともに若手ナンバーワン舞踊手による、迫力の舞台は必見だ。

「日本の皆様はDance(ダンス)なフラメンコをシンプルに楽しんでもらえる舞台にしたい」というファン・デ・ファンへの思いが凝縮された今公演。スペインから踊り、歌、ギター各分野の最高峰アーティストが集結し、純粋かつ情熱的なフラメンコを見せてくれる。

ファン・デ・ファンといえば、その端正なルックスと圧倒的なテクニックで日本でも絶大な人気を誇る実力派舞踊

Nov.3-4
待望の日本初演作品が
今JULY...
ファン・デ・ファン「NINJA」
「La Voz del Baile」(踊る声)



©Erolisa Azyag

手。今年5月の第2回フラメンコフェスティバル(於東京)でも、エネルギーで躍動感溢れるサバテアードで会場を沸かせたばかりだ。彼の踊り「フーロなフラメンコ」とは、是非、劇場でその真意を目の当たりにしたい。

祭典はまだ続く...

Flamenco Festival Vol.2

- 2014年3月22日公演 (&3月26日兵庫公演)
"De la cava, Barro y Llanto" 泥と涙
- 3月23日公演 "Lluvia" 雨

エバ・ジェルバブエナ (Eva Yerbabuena)



©Ruben Moran

5年ぶりの来日を果たすエバ・ジェルバブエナは、もはや説明不要の正統派フラメンコの女王だ。1970年ドイツのフランクフルト出身。伝統と完璧な技術に裏付けされた情熱的な踊りで、若くして実力派舞踊手の地位を確立、28歳で自身の舞踊団を旗揚げ以降、新しい舞踊世界を生み出し続けて今に至る。その活躍の場は舞台のみにとどまらず、映画出演等、世界中に熱狂的ファンをもつ、カリスマ的存在である。筆舌に尽くし難い、という表現がふさわしいエバの踊りを、まだ一度も観たことがないフラメンコ・ファンには、今公演で是非彼女の魂の叫びを生で受け止め、自らの感性を研ぎ違ませしてほしい。

(東京公演)
日時:2014年3月22日(土)・23日(日) 会場:新宿文化センター・大ホール
問合せ:03-3234-9999 チケットスペース
(兵庫公演)
日時:2014年3月26日(水) 会場:兵庫県立芸術文化センター KOBELCO大ホール(神戸市) 問合せ:0798-68-0255 芸術文化センターチケットオフィス



©Antonio Varonkov

Oct.11
ベニートガルシア待望の新作
「MOMENTOS de la Vida」SHIRUBE
前作「証(タマシ)」から2年。ベニート・ガルシアプロデュースの第2弾がついに上演決定。タイトルは「瞬間」。標とは、「瞬間」であり、「目標」も目指すものでもある。日本に居る約15年。今公演では、自身が母国スペインに帰郷し、ヘレス・カディス、セビージャ、そして故郷であるコルドバを巡って、また日本に戻るまでの旅の中、その町々でのSentimientos(情感)を、描いていくという。共演するのは、藤田三枝、屋良有子、里光光子という実力派の3人。彼らの観せられる「瞬間」が、私たちの「瞬間」の導(しるべ)となる予感に、今から期待が高まるばかりだ。

公演2カ月前を切った夏の某日。氏に今公演に向けた意気込みをうかがうと、「とにかく、ビュウな気持ちで本場の気持を出さないとダメなんだ」と...。本場の気持ちが伝わる、本場のものが見えてくるから「そこには、いつにも増して「フラメンコ」と真摯に向き合う姿があった。あとは、朝起きて筋トレして、食事の気をつけ、毎日のストレッチ、体のメンテナンス...。16歳では考えなくてよかったですけれど、35歳ではちゃんと言えないと

Oct.12-14

10月12日公演
「Trasmih (トラスミ)」
ベニートガルシア(Belen Maya) / Manuel Utrán
1966年ニューヨーク生まれ、天才舞

「新しく作品を作るためには、この2年間の色々な経験が必要でした。2年間の私の経験を、箱に入れてリボンをつけて、皆さんに持っていきます。手をのびただけで、それが自分のものになるので、皆さん楽しみにして下さい!」

「新しくて作品を作るためには、この2年間の色々な経験が必要でした。2年間の私の経験を、箱に入れてリボンをつけて、皆さんに持っていきます。手をのびただけで、それが自分のものになるので、皆さん楽しみにして下さい!」

日時:10月11日(金)
18:30開場19:00開演
会場:シアター1010*センジュ
出演:C=David Palomar(ダビパロマ)、El Plateao(エルプラテアオ) G=Riki Rivera(リキリベラ)、長谷川暉 Per=Ktumba(カトゥンバ) Violin=SAYAKA Pa=Jose三浦 B=Benito Garcia、藤田三枝、屋良有子、里光光子、Benito Garcia舞踊団 他
問合せ:03-6276-8787
ベニートガルシア・フラメンコスタジオ
[http://www.benitogarcia.jp]
※チケットプレゼント!詳細はP14をご覧ください



©Antonio Varonkov

「今」を感じたい...」

そして、共演するのはマヌエル・リニヤン。1980年グラナダ生まれ。ベレンとは04年から度々共演している。今年5月にはマックス賞最優秀男性舞踊手にも選ばれた、今最も有名な若き実力派バイラール。そのバイレセンスはもろもろ、脅威のサバテアードに日本のアフィシオンをトリコにすること間違いなし。2人の新しい感性のぶつかり合いに、フラメンコの「今」を感じたい...

今回の来日公演「トラスミ」では、ギターとカンテだけのシンプルな構成で、伝統的なフラメンコに徹する。とはいえず、彼女ならではの表現は見逃せないことだ。

踊家マリオ・マシヤを父にもつ、まさにフラメンコの申し子である。彼女の一番の動がフラメンコの流行を生み出すといっても過言ではなく、そのアバンギャルドなスタイルで、現代フラメンコにおいて、絶大な影響力を持つ女性バイレの一人だ。



©Antonio Varonkov